

放送日 令和5年5月10日（水）
担当者 市長 上野 正三

皆さんおはようございます。市長の上野正三です。

令和5年度がスタートし、約1ヶ月が経過しました。

今年度は第6次総合計画、3年目の年です。市政運営にあたり、目指す都市像「希望都市」「交流都市」「成長都市」の実現に向け、「市民との連携」「魅力発信による活性化」「持続可能な市政運営」を基本とし、活力と魅力に溢れ、市民の皆様が将来に夢と希望を持てるまちづくりを進めて参ります。

本年3月30日には、北海道日本ハムファイターズの新球場「エスコンフィールドHOKKAIDO」がオープンし、プロ野球公式戦が開幕しました。市内外はもとより、道外・国外からも多くの方々が北広島市にお越しいただいております。

当市にとりまして、「観光元年」「新時代」の始まりです。職員の皆様には、これまで以上に「おもてなしの心」を持った対応をお願いします。今後につきましても、ボールパークからもたらさせる価値と機会を多くの方に感じていただけるよう、関係機関と一層連携するとともに、心ときめく空間・胸弾む時間を共有できるようなまちづくりを推進して参ります。

また今年度は、中山久蔵翁が島松の地で赤毛米の栽培に成功してから150年の節目の年にあたります。久蔵翁をはじめ、多くの先人たちが幾多の試練や困難を乗り越え、今日の北広島市の発展の礎を築いてこられました。

職員の皆様には、先人たちの遺志を受け継ぐとともに、本市の歴史的なまちづくりに関われることに誇りと喜びを感じ、当市のキャッチコピーであります「アンビシャスシティ、大志をいなくまち」の職員として、何事にも挑戦する気持ちを忘れず、業務に当たっていただく事をお願いいたしまして朝のスピーチいたします。

放送日 令和5年5月15日（月）
担当者 副市長 水口 真

おはようございます。副市長の水口真です。

今年度も春の全国交通安全運動期間に朝のスピーチの順番が回ってきました。市内各地域では、交通安全協会や町内会、学校、市民生活課の皆さんが、朝7時半から街頭啓発に立ち、通学する児童など歩行者の安全確保に努めていただいています。5月20日は「交通事故死ゼロを目指す日」です。率先して交通ルールを守り、今日も一日、安全第一の運転を心掛けましょう。

さて、私の今年度の業務目標についてお話します。

大きな目標は、「にぎわいと活力にあふれる輝くまちづくり」とし、中目標を「未来のために今できる組織改革」とします。コロナ禍の影響により、社会環境や価値観が大きく変わっています。

また、今後、自治体DX推進計画の実行により、職員に求められる働き方も変わってきます。持続的で、かつ、安定的な行政運営を行う組織であるためには、地域の変化を読み取り、変化に対してしなやかに対応する組織である必要があります。これら大中の目標に向かう上での課題の多くは、「きたひろ未来創造ビジョン2021・未来創造プラン」に掲げられています。

今年度は、「未来創造プラン」に繋がる3つの課題に取り組みます。

1つ目は、引き続き、市コンプライアンス体制の構築に取り組みます。昨年度に策定されました市基本方針にある「職員行動指針」の浸透を図り、コンプライアンス意識の向上を進めます。

2つ目は人事制度の改革に取り組みます。人事評価の本格運用を目指し、採用・異動、昇任・降任、研修の各制度の連動を進めます。また、職員の生活と健康を守り、市組織の成長を促すよう時間外勤務ゼロを目指した具体的な行動を進めます。

3つ目は、多文化共創地域の基盤づくりに取り組みます。あらゆる人が普通に市内にある社会資源を使えて、機会の平等が実現されるよう、今ある制度の点検を進めます。

ボールパーク構想を掲げ、新時代に向かう今、常に自分の知っていることが全てではないという謙虚な気持ちと、多様な意見を聞く機会を持ちながら、発想の柔軟さを保ち、行動する1年にしてまいります。

最後になりますが、5月5日石川県能登地方で震度6強を観測した地震災害があり、その後も各地で強い地震が観測されています。

本市で地震が発生した時に、自分はどういう行動を取らなければならないのか、今一度確認をお願いいたします。

放送日 令和5年5月17日（水）
担当者 教育長 吉田 孝志

皆さん、おはようございます。教育長の吉田孝志です。

職員の皆さんにおかれましては、日々、市民目線での執務、大変ご苦労様です。またコロナ感染症の5類移行に伴い、窓口業務をはじめ市民の皆様との関わり方にも変化が生じ、様々な配慮に心がけていらっしゃるものと拝察いたします。

さて、今回は、私が校長時代に中学生に講話したお話の一つを紹介し、大人となっても、学び続け、自己更新し続ける大切さについてお話したいと思います。

中学生の皆さん、将来の夢や目指す生き方を決めているでしょうか。その実現のためには、身に付けた生活習慣を維持し、学習面でも生活面でも、自分なりに目標を立てることが大切になります。まず、「今の自分」を見つめ直し、「なりたい自分」をイメージしましょう。そして、「なりたい自分」になるためには、今、何をしたらよいかをじっくりと、深く考えてください。よく同じ勉強をし、同じ教育を受けているのに、結果や成果が人によって違うのはなぜかと、問われます。それは、本人に目標があるか、目標がないかの違いだと思いますよ。目標のある人は、学ぶことを大切にします。分かるまで、そして自分が納得いくまで、さらに学ぼうとします。反対に、目標のない人は、やらない理由ばかりを考えてしまいがちです。できない理由、やらない理由を並べ立てるのは、容易く、いくらでもできるものです。でも、そんなことの繰り返しばかりでは、結果を出したり、成果を上げたりできるはずありません。

目標ができたなら、実際に何をどうするか作戦を自分なりに立て、実行してみてください。上手くいかない場合は、どうしたら上手くいくのか、新しい戦略を立て直してみましょう。これは、プロスポーツ選手がよく使う「修正」という作業と一緒に、先生や友達の評価を気にする前に、自分で点検できるようになると、この「修正力」が身に付きます。初めから目標を簡単に達成できるはずはありませんので、作戦を小まめに「修正」できる力を身に付けましょう。やはり、自らの目標やなりたい姿に近づくためには、随時、物事に向かう姿勢や方法を「修正」したり、「編集」したりして、自己更新に努めることが大事なのです。

おおよそこうした話なのですが、社会人になった私たちにも相通ずるものがあるように思います。これからの時代は、正解のない時代と言われます。そうした中、職場の同僚や仲間と協働する中で、その場に合った「最適解」や、多くの構成員や市民の理解が得られる「納得解」を導き出す力が求められています。また昨今は、アンラーニングの時代とも言われております。これは、知識を入れ替え、組み直し、アップデートすることを指しますが、社会人としての学び直し、リスキングに取り組むことが期待されています。

今後も、職場での「凡事徹底」を基底にしつつ、先の中学生に伝えた、身近な目標の達成に向けて計画を立て、その修正力や編集力を身に付け、それを駆使する力を自らに備えておくことが、社会人として自己実現を図る上で必須になっていると考えるところであります。

私は、市民の皆さんが、そして子どもたちが、学びによって幸せを感じているか、幸せな学び環境の中にあるか、が教育行政推進の根幹と捉えているところであり、「市民が、子どもが、主役・主語となる教育」を今後も大事にしていきたいと思いますので、ご理解とご協力の程をお願い申し上げます。

また、今年はBP開業元年、寒地稲作成功150周年の節目の年でもあり、よりよいまちづくりを目指してともに努力しましょう。

放送日 令和5年5月22日（月）
担当者 企画財政部長 千葉 直樹

おはようございます。企画財政部長の千葉直樹です。

昨年度の企画財政部におきましては、前部長を中心とした職員のアグレッシブな対応によりおおむね予定通りに事業は進捗しました。

本年度につきましては、人口減少、少子高齢化、物価高騰など厳しい社会情勢ではありますが、ボールパーク開業による多くの効果やメリットを活かしつつ、10年後を見据えた総合計画の実現に向け、地域課題を踏まえ、市長のマネジメントを補佐し、全庁的な総合調整に努めたいと思います。

本年度の事務事業の中から何点か紹介します。

はじめに、駅西口周辺エリア活性化事業では、現在、建設中の複合交流拠点の整備をパートナー企業と連携するとともに、市有地C・Dと位置づけしたエリアの新たな事業計画の検討を行います。

次に、ふるさと応援事業では、魅力ある返礼品の拡充、旅先納税、企業版ふるさと納税など経済部と連携して展開しますが、みなさん何か良いアイデアがありましたらご意見をお寄せください。

財政面では、適正な予算措置・査定を行い、持続可能な財政運営を維持していきます。

広報関係では、広報紙のほかWEBサイトやSNS、市公式LINEアカウントにより多様な情報発信を展開します。

次に、適正な土地利用、景観条例の制定の検討など、わがまちにふさわしい景観となるよう注力したいと思います。

交流事業では、東広島市との姉妹都市交流や国際交流の在り方についての検討も行ってまいります。

以上、本年度取り組む事務事業の一部について紹介しましたが、様々な諸課題がある中、職員がチームワークをもって着実に取り組み、企画財政部は各部局から頼られ、共に働く集団であることを目指したいと思いますので みなさんよろしくをお願いします。

放送日 令和5年5月24日（水）
担当者 企画財政部次長 福田 誠

おはようございます。企画財政部次長の福田誠です。

企画財政部では令和5年度、駅西口の複合交流拠点施設等の整備、適正な行財政運営の推進、正確な市政情報の発信、本市にふさわしい景観のあり方の検討など、5項目を基本方針として取組むこととしております。

また、基本方針に基づく12の事業を重点項目にあげておりますが、その中の一つであります駅西口周辺エリア活性化事業については、注目を集める大事業となっております。

今後、関係部局やパートナー企業などと連携しながら、市の顔にふさわしいまちづくりを進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

次に、秘書課で担当しております姉妹都市交流事業について、少しご紹介させていただきます。

昭和55年7月に東広島市と姉妹都市を締結し、今年で43年目を迎えます。今年は、ボールパーク開業記念事業として、セ・パ交流戦の日程に合わせて6月5日から東広島市長をはじめとする訪問団の方々に、お越しいただくこととなっております。

また、関係部局などにご協力をいただき6月5日（月）から8日（木）までの4日間、Fビレッジ内の「THE LODGE」にある「HUB」において、東広島市の特産品等を販売する物産展も開催いたしますので、職員の皆様もぜひお越しくださいますよう、よろしくお願いたします。

放送日 令和5年5月29日（月）
担当者 総務部長 尾崎 英輝

おはようございます。総務部長の尾崎英輝です。

総務部では、市民生活を支える市の各部署が適切かつ円滑に業務を遂行できるよう、必要な管理、調整等の業務を行い、しっかりと各部署を支えてまいりたいと考えております。

今年度の総務部の重点事項としましては、来年度、開基140年を迎えるにあたっての記念事業の準備、適正な行政組織の構築、市民から信頼される市役所実現のためのコンプライアンス意識の醸成、債権管理のノウハウを伝える所管課向け説明会、市民の利便性の向上や地域の発展、市役所改革を進めるDXの推進とそれを実現するための庁内デジタル人材の育成、防災対策では5年に一度の総合防災訓練を実施いたします。

ボールパークの開業や駅西口開発などによりこれまでにないほど、まちのあり様が大きく変化してきており、市としてもそうした変化にしっかりと対応しなければなりません。一方、超少子高齢化社会を迎え、多くの業種・業界で人手不足となっている中でも市として地方自治体の本旨である住民福祉の増進を将来に渡って確実に図っていく必要があります。そのためには、職員一人一人が自らの職責をしっかりと果たすとともに、総務部としましても職員がその力を発揮できるのはもとより、市役所全体、組織として労働生産性を向上させる行政組織の見直しやDXの推進には特に力を入れて取り組んでまいりますので、職員の皆様のご協力をよろしく申し上げます。

放送日 令和5年5月31日（水）
担当者 総務部次長 池田 恵一

おはようございます。総務部次長の池田恵一です。最近ニュースやテレビでよく「国家安全保障」という言葉を耳にするとと思いますが、その意味は「国の独立や国民の生命・財産などに対して何らかの脅威が及ばぬよう手段を講じることで安全な状態を保障すること」と明記されています。

日本を取り巻く安全保障環境は、近年強大な軍事力を有する隣国が集中し、軍事力の強化や軍事活動の活発化の傾向が見られます。日本政府の施策において脅威に対抗するため、かつ絶対に戦争を起こさないためにも日本の安全保障戦略の第一の柱である「外交力」、「抑止力」が不可欠だと考えられており、北海道自衛隊でも北海道大演習場の日頃の訓練を始め脅威に対する役割は大変重要な「抑止力」となっています。そして北海道大演習場の近隣自治体として可能な限り、協力体制が取れるよう考えていかななくてはならないと思っております。

担当業務ですが、防衛に係る渉外担当として、まずは防衛省、自衛隊と連携を図って行きます。具体的には自衛隊北海道大演習場（島松地区）で戦車砲や重砲火器による射撃訓練のほか、同演習場を使用しての戦闘機及びヘリコプターなどによる訓練で市民の皆様にも極めて大きな騒音などの障害を与え、また自衛隊等車両は、同演習場等での訓練、自衛隊等との連絡のため市内を自衛隊車両など通行もあります。このため、市として住民のご理解とご協力を得ると共に防衛施設の設置・運用によって生ずる諸障害の解消や緩和に向け事業の採択及び補助金の助成について防衛省、財務省、総務省、北海道庁、北海道防衛局そして北海道選出の国会議員等の方々へ要望しているところであります。昨年度に引続き、防衛省所管の補助金を獲得するための要望活動や関係機関、近隣自治体との連携を図るべく連絡調整を更に強化し、役所内においては各部署からの要望を取りまとめ、事業が採択されるよう、防衛に係るまちづくり・周辺対策事業を始め必要な補助金を関係機関等への要望活動を逐次行っていきます。また、実施する根拠として、自衛隊の訓練・演習等防衛施設により生ずる障害を施設周辺の住民のみが受任することは、公平性に欠ける観点から法律に基づき、道路整備の助成、学校防音工事の助成など安全対策として各種施策を継続実施しております。

今年度継続事業として、大曲地区の防災食育センター事業を始め道路整備補助事業及び防音対策補助事業など市民の皆様の生活に直結する民生安定に係わる一旦を、進めていくことが渉外担当の重要な職務だと考えております。そして、補助事業完成後は、法律に基づき、適正に事業が完了しているかを判定する国の機関である会計検査院所管の厳正な検査を受検しなくてはなりません。それらを滞りなく進めて行く上でも、ご担当の職員の皆様のご支援ご協力あつてのものだと思っております。

市の防衛担当として、防衛省自衛隊と自治体が共存共栄していく中で、まちづくり事業に係る防衛補助を今後可能な限り取り込み、市民の安心安全な生活環境を構築し、益々住みやすい街をめざして進めて行く事が出来るものと考えております。今後とも皆様のご協力、ご支援の程よろしくお願いいたします。